

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2891000065		
法人名	社会福祉法人ウエル清光会		
事業所名	グループホーム 陽光苑		
所在地	兵庫県芦屋市陽光町3-75		
自己評価作成日	令和6年2月4日	評価結果市町村受理日	令和6年3月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/28/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉市民ネット・川西		
所在地	兵庫県川西市小花1-12-10-201		
訪問調査日	令和6年2月23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

排泄について、一人ひとりの能力と排泄のリズム・パターンの把握を行い、定期的な声かけ・誘導を行いトイレでの排泄、パットを減らし、リハパンから布パンツへと自立に向けた支援を行っています。起床時間、臥床時間、食事の時間等その方のペースを大切にした対応を行っています。洗濯物を畳んだり、干したり、お湯呑み等食器を洗って頂いたり出来る事を見つけてお手伝いして頂き、現状維持が出来るように努めています。入居者と一緒に過ごす時間を大切に、ソファに座って、訴えを傾聴、コミュニケーションを図り、安心して過ごして頂けるように努めています。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

複合施設の4階に位置する事業所には、南に大阪湾、北に六甲山系を望み、西には総合公園と運動施設に囲まれた緑あふれる豊かな眺望がある。法人理事長が「10のいい心」を支援の根幹として執筆した冊子を入職する全職員に配布し、職員は朝礼で理念と共に唱和し、日々の礎として利用者支援にあたっている。利用者の自発性を重要視し、過剰介護せず見守り支援の姿勢で臨んでいる。利用者は散歩を日課としたり、ドリル、スタッフとゲーム、百人一首などそれぞれが自由に過ごす日常と、誕生日会、豆まき、ひな祭り、花見、夏祭りなどの季節行事などイベントやレクリエーションで非日常を体験し、安定と変化両面の日常生活を楽しんでいる。利用者の高齢化が進み、介護度があがってきている現状にありながら職員の企画と努力により、自分らしく、思いのままに暮らせる事業所を今後も続けていけるようなお一層の努力を期待します。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および第三者評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝、朝礼時に全員で唱和し、実践に繋がるように努めている。	法人理念を地域交流室とユニットに掲示している。理事長が設定した心得を職員用トイレに掲示し、日常的に目に触れる工夫をしている。毎朝、職員は支援の土台となる理念と心得を唱和してから、日常の業務に邁進している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の小学校の作品展、秋祭りの子供神輿の見物、集会所での餅つき等参加して交流を図っている。	地域行事には積極的に参加している。小学校の作品展には事業所利用者からの観覧日が設けられ、作品をゆったり楽しむことができた。中学校のトライやるウィークの受入れも行っている。神輿行列が通過した際に利用者は玄関先から歓迎した。地域ボランティアの受入れはまだ再開されていないが、音楽療法士や絵手紙講師の来訪がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議でご意見等聞き、施設の取り組みをお伝えしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回開催、他事業所とお互い参加して情報交換を行っている。	運営推進会議には、家族、地域代表、近隣事業所および行政が参加し、参加者からは運営の参考になる意見をもらっている。屋上菜園の手入れを家族で取り組む企画を立案中であり、ほかには、他事業所の取組みなどを参考にし運営に反映している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事業所連絡会に参加し、情報交換を行っている。	市内9か所の事業所で年4回連絡会を開催し、情報交換や相談などを行っている。グループホームに対する理解を深めるために、管理者は居宅事業者の連絡会に出席し、情報提供を行った。他施設を含め、今後の連絡会のあり方を検討している。	

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	会議・勉強会をしながら、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	委員会は併設の同法人事業所と合同で開催され、事業所からは1名の委員が出席している。議事録はスタッフルームに掲示し職員共有を図っている。職員研修は年2回、勉強会が年3回開催され、職員は事後レポートを提出し、管理者は理解の浸透を確認している。利用者はユニット間は自由に行き来でき、パスワードで制限されているエレベーターに、来訪者と共に乗ってしまうこともあるが、1階事務室の職員が見守っている。身体拘束廃止の指針は策定されているが、事業所としての整備は不十分である。	指針の表記および保管方法について、整備を進めていただきたい。
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会議・勉強会で話し合いを行っている。現場からの報告や気になる事があれば、その場で注意するように努めている。	委員会構成と開催については身体拘束廃止委員会と同様である。法人主催の研修会、事業所内の勉強会は頻回に行われ、職員の意識付けに繋がっている。職員の不適切な事案を見た際は、上司に報告する仕組みであり、職員間で相互に指摘できる関係性はない。虐待防止の指針は策定されているが、整備は不十分である。	委員会の議事録を身体拘束委員会とは別の保管し、さらに指針の保管等の整備を進めていただきたい。
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者様で、後見人制度を利用されている方がおられ、学ぶ事はある。	制度利用中および申請中の利用者がある。職員研修の仕組みはなく、家族への事前の情報提供はしていない。	職員研修の機会を検討し、家族向けの情報提供資料の常備をお勧めする。
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に説明は行っているが、疑問に思われる事等その都度説明を行いご理解して頂ける様努めている。	契約の際は管理者が重要説明書を基に、納得してもらえるよう工夫して読み砕いて説明している。医療面については看護師が説明するが、重度化、急変時、看取り介護、リスク説明等医療に関する指針や意思確認について書式は不十分である。	各指針の文言および理解や意思確認に関する様式の整備を進めていただきたい。
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来苑時にご家族様のご意見・ご要望をお伺いさせて頂き、運営に反映出来るように努めている。	運営推進会議への家族参加は1年毎の輪番制として出席をお願いしている。事故対策については家族から貴重な意見をもらったり、屋上菜園の手入れへの協力等、家族の意見を反映できるよう取り組んでいる。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	フロア会議や個人面談で要望・意見を聞き、反映出来るように努めている。	毎月の職員会議や管理者の毎月の個人面談で職員の意見や要望を受け、事業運営に活かしている。レクリエーションは、行事委員会で企画立案し、全職員で協力して取り組んでいる。	

自己	者 第 三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得の為の費用負担や取得後のお祝い金、昇給等支援を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で取り組んでいる研修、動画での研修、実技チェックでのスキルアップに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	入居系・居宅系部会との理解を深める為の会合の開催を行い、交流を図っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に情報共有を行い、関わる全てのスタッフでコミュニケーションを図り、関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様の意向をしっかり聞き取り、ご要望に応えられるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現状維持が出来るような対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お互いの立場を理解した上で、よりよい関係を築くことが出来るように努めている。		

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃の状況をお伝えし、現状を理解して頂きながら、信頼関係を築いていけるように努めている。		
20	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人の方との面会や電話対応による情報提供を行い、関係性が途切れないように努めている。	昨秋から、面会、外出、外食、宿泊も可能とした。友人や家族の来訪が再開され、生き活きと過ごしている利用者がある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	イベント・行事の際は、両ユニット一緒に行う事で、入居者様同士の関わりの機会の確保に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご連絡を頂いた時には、相談・支援が出来るように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員一人ひとり、日常生活での会話の中で、本人様の思いが理解出来るように努めている。	職員は日常会話の中で、利用者の希望を聞き取り思いを受け止めるようにしている。帰宅願望が強くなり一人で外出しようとする利用者を止めるのではなく、一緒に歩いたりお茶を飲み話を聴く事で気持ちに寄り添う支援をしている。	利用者の、新たな情報を得た時は、職員が共有できるように記録の整備をして頂きたい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人様との会話や家族様来苑時にお話をさせて頂く中で、これまでの暮らし方の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	情報収集・共有して現状把握に努めている。		

自己	者 第 三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	状態把握、共有する事で、必要なサービスとの話し合いを行なっている。	介護計画は事前に家族から要望を聴き、半年ごとに作成している。モニタリングを基に、看護師や管理栄養士を含めた当日出勤者でサービス担当者会議をしている。半年ごとにモニタリングしているが、利用者の心身の状態変化の過程が分かりにくい。	利用者の、初回サービス計画作成日を確認して下さい。モニタリングの判断基準の整備をして頂きたい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の記録、申し送りで状態を確認、日々のサービス・対応に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	施設内での多職種連携を図り、柔軟な対応に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のイベント、行事に参加して、社会との関わりを持って過ごす事が出来るように支援に努めている。		
30	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族対応によるかかりつけ医の受診と何かあれば適切な医療を受ける事が出来るように施設連携医の支援がある。	事業所連携医の訪問診療が月2回あり、夜間や休日オンコール対応が可能である。利用者の体調不良時や急変時は、法人の看護師が医療機関に連絡し、情報提供して判断を仰いでいる。歯科医師の訪問診療、口腔ケアもあり、他科受診は家族が同行している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者様の情報提供、共有する事で連携は取れている。看護師から常に指示を受ける事は出来ている。		

自己	者 第 三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	地域連携室の相談員の方との連携を図り、入退院時の情報交換、調整等、スムーズに進むように努めている。	骨折で入院した利用者が、手術後数日のリハビリを受け2週間で退院した。事業所の柔道整復師の指示を受け、職員は生活リハビリ支援に努めている。入院中の居室確保期間は1か月となっているが、状況により家族や医療機関を含め話し合う事もある。	
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療職より説明を行い、多職種で連携を図り支援に取り組んでいる。	重度化や終末期対応を受け入れ支援しており、定期的に看取りの研修会をしている。契約時、家族に重度化指針や終末期ケア対応指針を説明し理解を得ているが、書類内容が不十分である。	各種書類に事業所名や日付を記載する等、書式の整備をして頂きたい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルに沿って対応を行っている。		
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に防災、避難訓練を行っている。	防災委員会は2か月毎に会議開催し年2回避難訓練をしている。消防署立ち合いで避難訓練後、講評をもらい職員で共有した。ハザードマップを掲示し、法人全体で1週間分の備蓄品とリストを準備している。利用者は参加せず職員が日中のみの避難訓練をした。	夜間想定や利用者も参加した避難訓練をして頂きたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	研修や勉強会で学び、配慮をした対応を行っている。	利用者と呼ぶ時は名字にさんを付け、排泄時は小声で誘っている。入浴や排泄時はドアを閉め、医師の診察は居室で行う等羞恥心に配慮している。意思表示が難しい利用者は選択出来るように支援し、施設長が作成した資料を基に接遇や尊厳研修会を開催している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員一人ひとり、日常生活での会話の中で、本人様の思いが理解出来るように努めている。		

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースに合わせて、無理強いする事なく支援させて頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい身だしなみになるように支援している。		
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	苦手な物は変更してもらっている。器の変更等して、自力摂取が出来るように支援を行っている。	ユニットで炊飯し、厨房で調理し盛りつけた状態で食事が届く。毎月ご当地メニューや魚か肉かの選択メニュー、カレーの日等があり利用者は楽しみにしている。食器洗いやテーブル拭き等利用者は出来る事を手伝い職員が支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取状況を確認して、形態の変更を行い、摂取量の確保が出来るように努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯磨きの促し、介助、義歯洗浄を行っている。訪問歯科による口腔ケアの提供を行っている。		
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のパターンの把握を行い、トイレ誘導を行っている。	排泄の自立者が多く日中はトイレを利用している。総合記録シートのデータから時間帯を把握し声掛けや誘導を行っている。夜間は声掛けをせず安眠確保のため、パッド使用する利用者支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	医療との連携を図り、緩下剤の調整を行っている。活動量の確保、水分摂取の促しを行っている。		

自己	者 第 三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	無理強いをせず、時間、曜日の変更を行っている。	フロアに普通浴槽とチェアー浴とが設置され、利用者の心身の状態により使い分け、両ユニットで協力し共用している。入浴は週2回を確保しているが、利用者の状況により日時の変更を受け入れ柔軟に対応し、ゆっくり入浴できる支援に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中に臥床して頂いたり、その方のペースで就寝して頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	その方の状態や服薬による変化等見られた時は、看護師に報告を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方の能力にあった役割、楽しみを見つけて支援させて頂いている。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	苑周辺の散歩に出かけている。家族様と一緒に食事に行かれたり、散歩をされたりと気分転換の支援を行っている。	コロナ5類以降は面会や外出の制限を外した。近隣の遊歩道や総合公園等、天候を見て毎日散歩に出掛け、地域の人と挨拶をする利用者もいる。家族と散髪や買い物、食事に行く利用者もある。屋上で日光浴を兼ねて菜園や海を眺める等、利用者の希望に応じた支援を行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は行っていない。ご希望により、施設建て替えて対応を行っている。		

自己	者 第 三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話、お手紙の取次ぎの対応を行っている。		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	換気や明るさ等環境整備に配慮を行っている。自分で作られた作品をドアに掲示させて頂いている。	エレベーター前に職員の写真や勤務状況を掲示している。二つのユニットは繋がっており、利用者はソファに座りおしゃべりをしたり自由に行き来している。リビングは、季節の花を飾り、タペストリーや折り紙を貼り合わせた壁飾りで季節を表している。空気清浄機や湿温度計を設置し環境に配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ユニットを自由に行き来したり、ソファに座っておしゃべりをして頂いている。		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	タンスや写真等自宅で使われていたものを持参して頂き落ち着ける空間作りに努めている。	入り口の名札は大きな文字で利用者に分かりやすく表示する工夫をしている。ベッドや洗面台、クローゼットやカーテン、空調が設置された居室に、利用者は使い慣れた家具や冷蔵庫、電子レンジ等を置いている。遺影や家族写真を飾り、居室は常に自身で整理整頓している利用者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すり等の設置で、自立に向けた支援に努めている。		

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容